

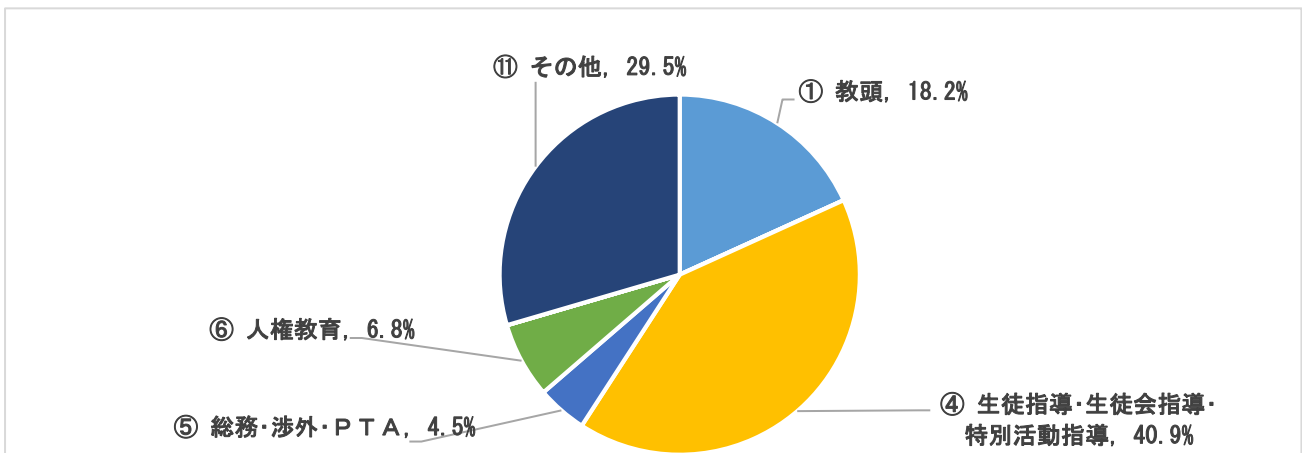
**アンケートA（学校回答用）**

※ 以下の集約において、「（43校中）」に示す数値は、複数回答可の質問において、それぞれ該当する旨の回答をした学校の割合である。

問1：本事業の主担当者の役職・校務分掌等を1つ選択してください。

① 教頭	18.2%
② 教務	0.0%
③ 進路指導・キャリア教育	0.0%
④ 生徒指導・生徒会指導・特別活動指導	40.9%
⑤ 総務・渉外・PTA	4.5%
⑥ 人権教育	6.8%
⑦ 図書・情報・文化	0.0%
⑧ 保健体育	0.0%
⑨ 環境整備・美化	0.0%
⑩ 地域交流・連携・コミュニティ・スクール	0.0%
⑪ その他	29.5%

主担当者のうち 18 名 (40.9%) が ④生徒指導・生徒会指導・特別活動指導担当者である。①教頭は 8 名 (18.2%) である。⑪その他は広報・学部主事・専門教科担当がそれぞれ複数名 (29.5%) である。



問2：本事業及び「地域と共にある学校づくり」全般（以降「全般」）において、どのような取組をしましたか。あてはまるもの全てを選択してください。

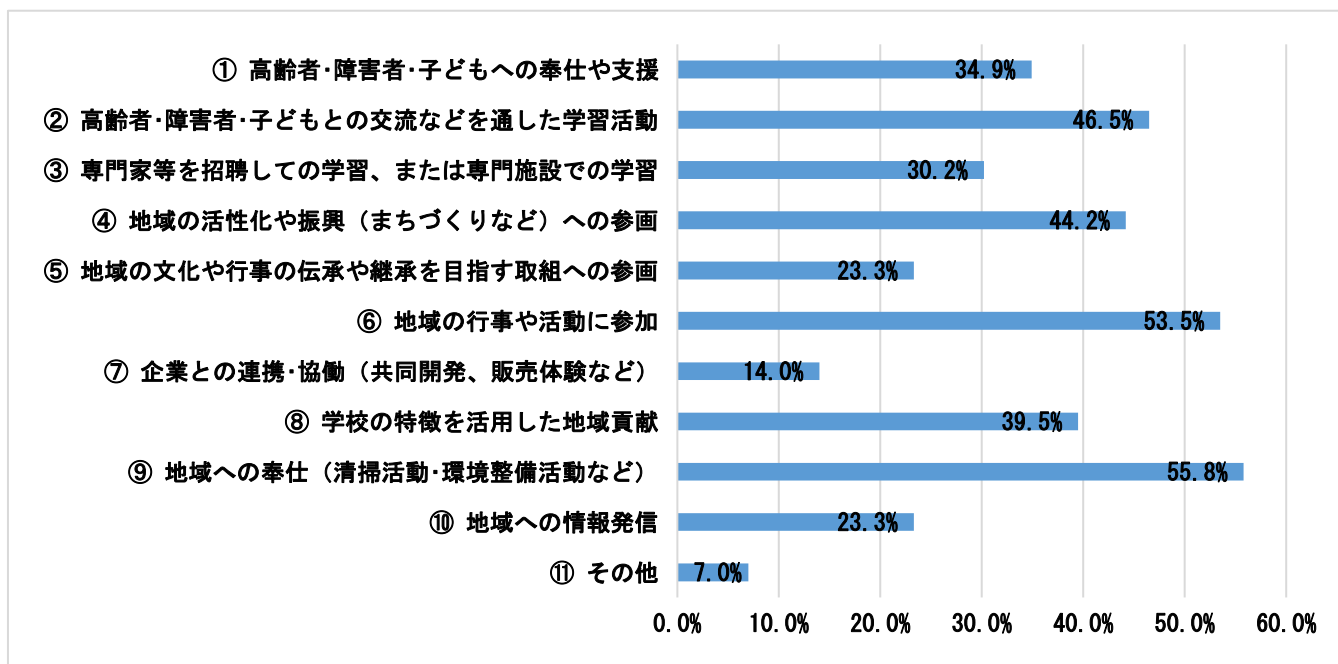
	本事業	全般
① 高齢者・障害者・子どもへの奉仕や支援	34.9%	51.2%
② 高齢者・障害者・子どもとの交流などを通じた学習活動	46.5%	65.1%
③ 専門家等を招聘しての学習、または専門施設での学習	30.2%	41.9%
④ 地域の活性化や振興（まちづくりなど）への参画	44.2%	51.2%
⑤ 地域の文化や行事の伝承や継承を目指す取組への参画	23.3%	25.6%
⑥ 地域の行事や活動に参加	53.5%	79.1%
⑦ 企業との連携・協働（共同開発、販売体験など）	14.0%	14.0%
⑧ 学校の特徴を活用した地域貢献	39.5%	44.2%
⑨ 地域への奉仕（清掃活動・環境整備活動など）	55.8%	86.0%
⑩ 地域への情報発信	23.3%	37.2%
⑪ その他	7.0%	9.3%

(43校中)

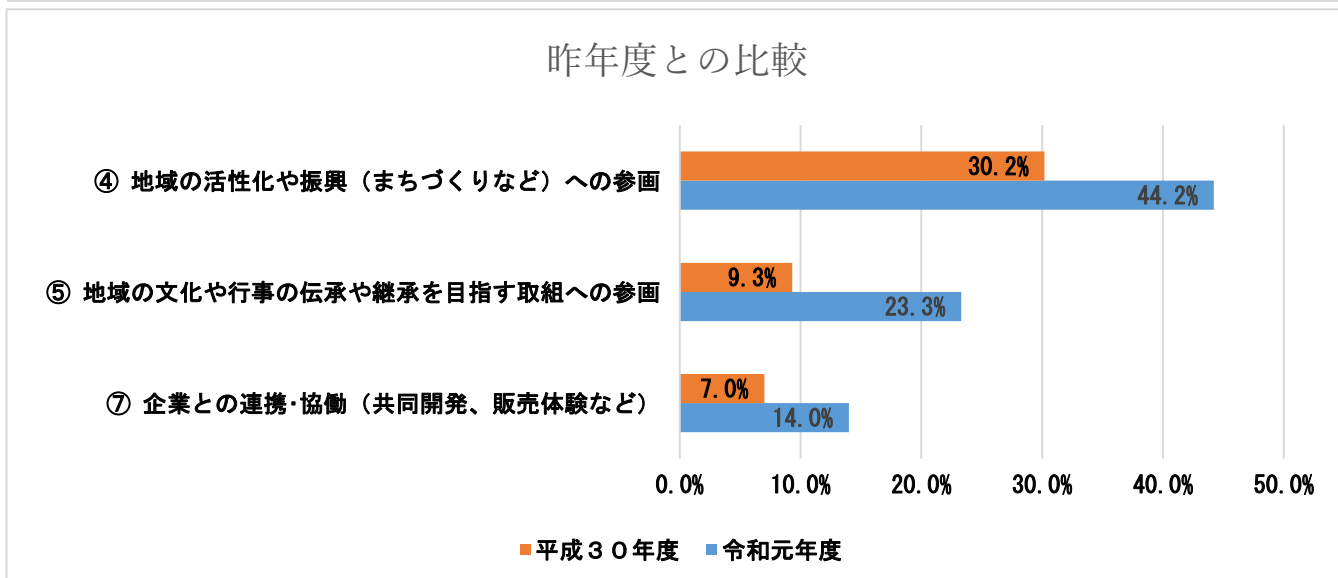
(43校中)

⑨地域への奉仕、⑥地域の行事や活動に参加、②高齢者・障害者・子どもとの交流などを通じた学習活動の割合が高く、次に④地域の活性化や振興への参画、⑧学校の特徴を活用した地域貢献が続き、多様な活動が行われていることがうかがえる。

「地域に資する人材育成」の観点では、④地域の活性化や振興への参画、⑤地域文化等に関する取組、⑦企業との連携・協働に生徒が参画することも重要であるが、これらは、昨年度と比較すると、それぞれ、④1.5倍、⑤2.5倍、⑦では、2.0倍に増加しており、この分野の取組の充実がうかがえる。



### 昨年度との比較



問3：本事業及び「全般」の取組は、年間、のべ何日活動を実施しましたか。

	計	平均
本事業	1,430	32.5
全般	1,953	44.4

問4：本事業で実施した取組は、始めて何年目になりますか。あてはまるものを1つ選択してください。

① 1年目	4.0%
② 2年目	8.1%
② 3～5年目	34.3%
③ 6～10年目	29.3%
④ 11年目以上	24.2%

取組を長年にわたり実施している学校が多い。地域とのこれまでのつながりを大切にし、継続的な取組が実施されていることがうかがえる。

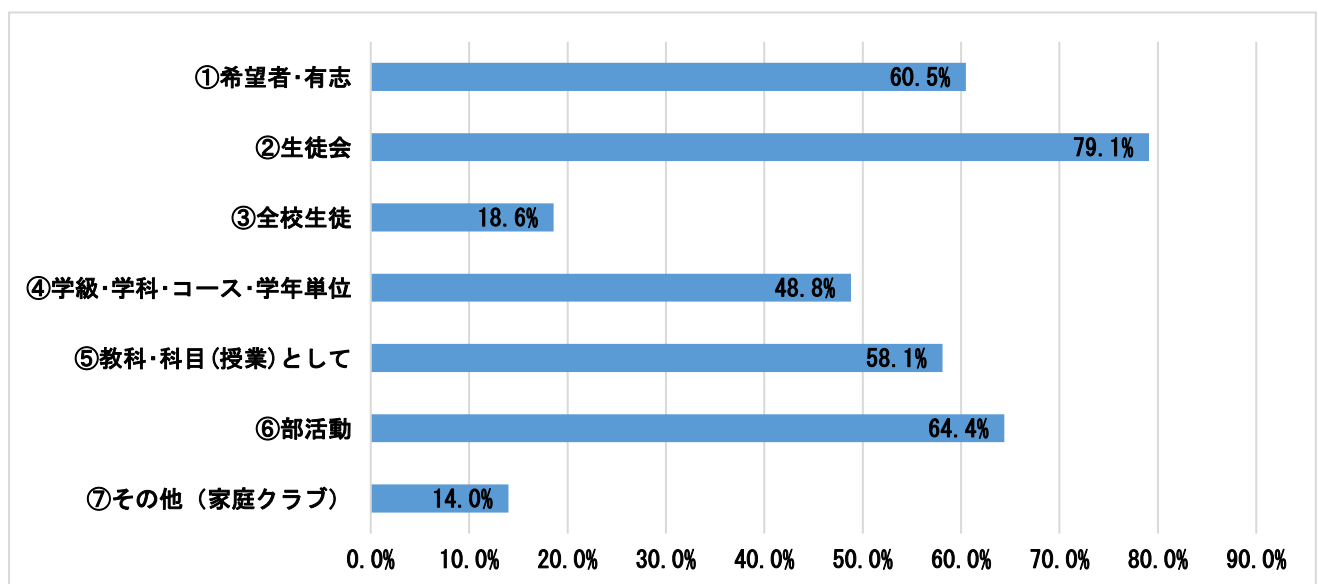
問5：本事業及び「全般」の取組に関わっている生徒の立場は、次のどれに当たりますか。あてはまるものを全て選択してください。

	本事業	全般
① 希望者・有志	46.5%	60.5%
② 生徒会	51.2%	79.1%
③ 全校生徒	7.0%	18.6%
④ 学級・学科・コース・学年単位	37.2%	48.8%
⑤ 教科・科目(授業)として	39.5%	58.1%
⑥ 部活動	55.8%	64.4%
⑦ その他(家庭クラブ)	14.0%	14.0%

(43校中)

(43校中)

半数を超える学校で②生徒会⑥部活動がこの取組に関わっており、学校の強みを活かして地域とつながっていることがうかがえる。一方で、本事業を含む取組全般で、④学級・学科・コース・学年⑤教科・科目のように「教育課程の一環」として行っている取組がそれぞれ48.8%、58.1%となっている。「社会に開かれた教育課程の実現」のためにも、この視点での取組を一層充実させていきたい。



問6：本事業及び「全般」の取組に関わった生徒数を、「のべ人数」でお答えください。

	計(人)	平均(人)
本事業	9,678	220.0
全般	19,338	460.4

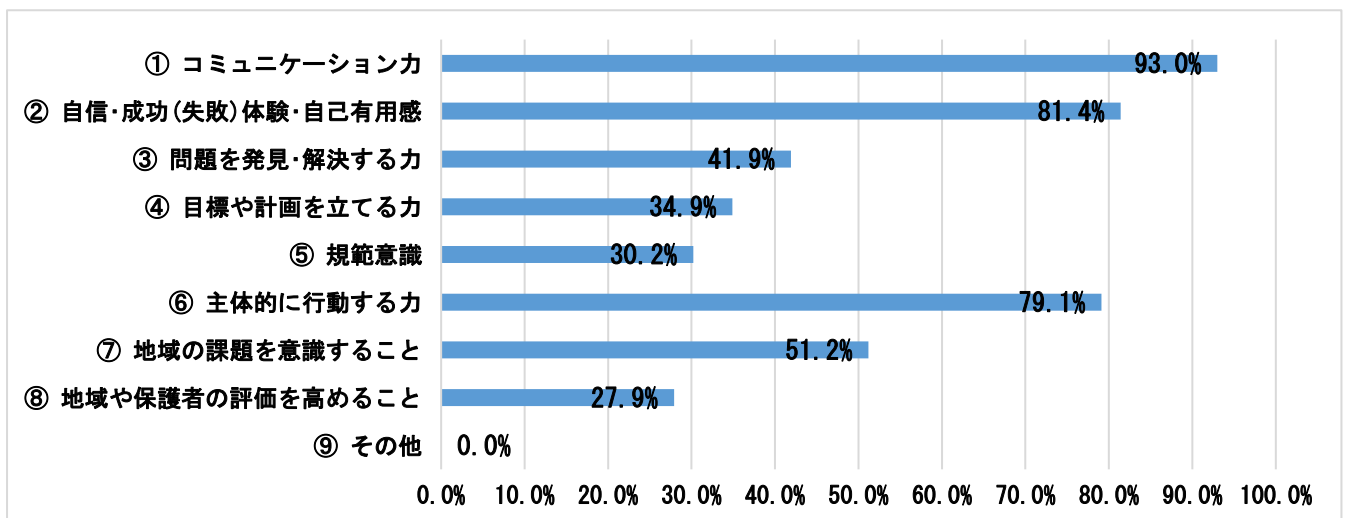
問7：本事業の取組を通して、生徒にどのような力や意識が身に付くことを期待しましたか。あてはまるものを全て選択してください。

① コミュニケーション力	93.0%
② 自信・成功(失敗)体験・自己有用感	81.4%
③ 問題を発見・解決する力	41.9%
④ 目標や計画を立てる力	34.9%
⑤ 規範意識	30.2%
⑥ 主体的に行動する力	79.1%
⑦ 地域の課題を意識すること	51.2%
⑧ 地域や保護者の評価を高めること	27.9%
⑨ その他	0.0%

(43校中)

93.0%の学校が①コミュニケーション力の向上を挙げている。また、②自己有用感(81.4%)⑥主体的に行動する力(79.1%)も多くの学校が目標(ねらい)として挙げている。

「地域と共にある学校づくり」を進める上で、どのような生徒を育成するのか、目標を明確化し、地域と共有することはとても重要な事項である。今後も学校と地域が目標や課題、ビジョンを共有し、取組を進めることを大切にしていきたい。

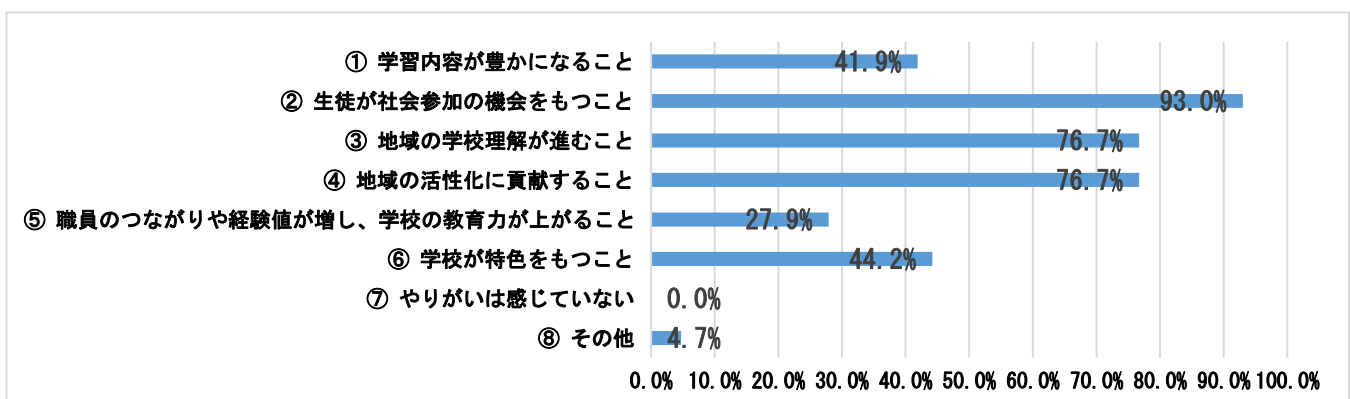


問8：本事業の「やりがい」は何だと思えますか。あてはまるものを全て選択してください。

① 学習内容が豊かになること	41.9%
② 生徒が社会参加の機会をもつこと	93.0%
③ 地域の学校理解が進むこと	76.7%
④ 地域の活性化に貢献すること	76.7%
⑤ 職員のつながりや経験値が増し、学校の教育力が上がること	27.9%
⑥ 学校が特色をもつこと	44.2%
⑦ やりがいは感じていない	0%
⑧ その他	4.7%

(43校中)

②生徒が社会参加の機会をもつこと(93.0%)、③地域の学校理解が進むこと(76.7%)、④地域の活性化に貢献すること(76.7%)を多くの学校がやりがいと捉えている。

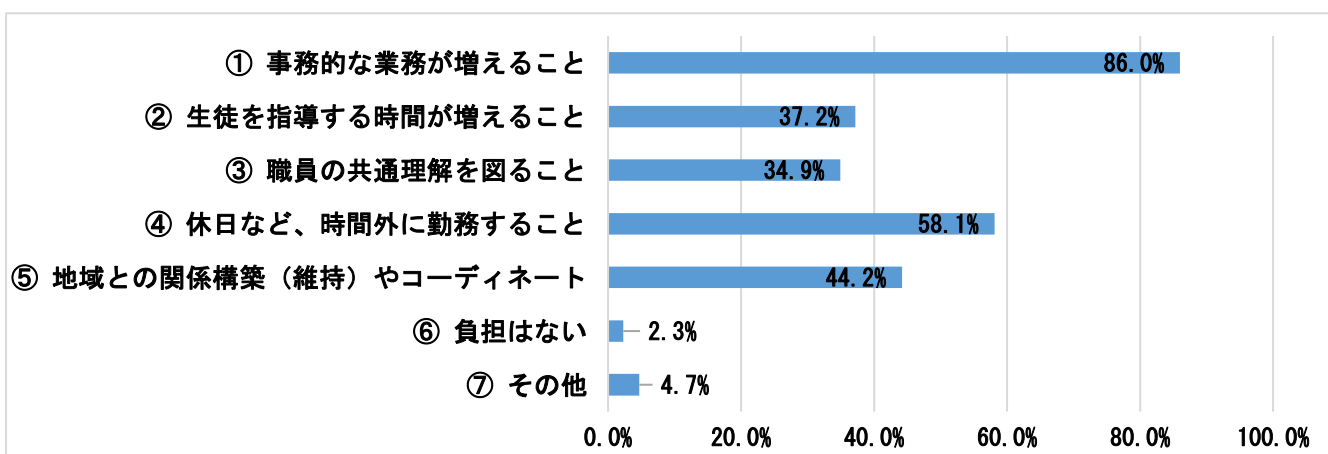


問9：本事業の「負担」があるとすれば、それは何ですか。あてはまるものを全て選択してください。

① 事務的な業務が増えること	86.0%
② 生徒を指導する時間が増えること	37.2%
③ 職員の共通理解を図ること	34.9%
④ 休日など、時間外に勤務すること	58.1%
⑤ 地域との関係構築（維持）やコーディネート	44.2%
⑥ 負担はない	2.3%
⑦ その他	4.7%

(43校中)

⑥で負担はないという回答は2.3%（1校）であり、この取組に負担を感じている担当者が多いことを示している。その中で、①事務的業務の増（86.0%）及び④休日・時間外勤務（58.1%）については、働き方に関わるものであり、教職員間の連携・共通理解等をとおして負担の軽減または解消を図る必要がある。

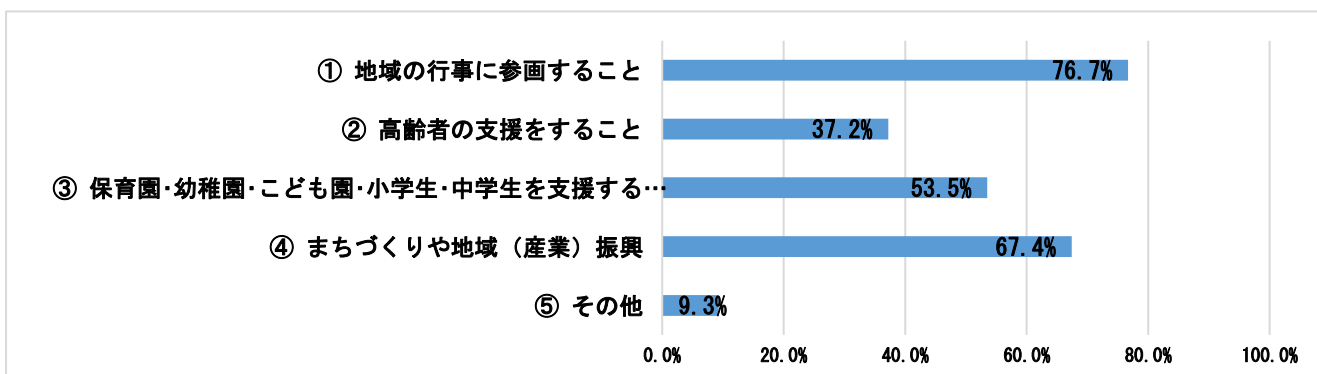


問10：地域が学校に寄せている「期待」は何であると感じていますか。あてはまるものを全て選択してください。

① 地域の行事に参画すること	76.7%
② 高齢者の支援をすること	37.2%
③ 保育園・幼稚園・こども園・小学生・中学生を支援すること	53.5%
④ まちづくりや地域（産業）振興	67.4%
⑤ その他	9.3%

(43校中)

76.7%の学校が①地域行事参加・参画に、また67.4%の学校が④まちづくり・地域振興に期待を感じていると回答している。これらは、生徒が地域課題を意識することの大切さを学校が認識し、かつ地域を「学びのフィールド」と捉えている現れであると思われる。

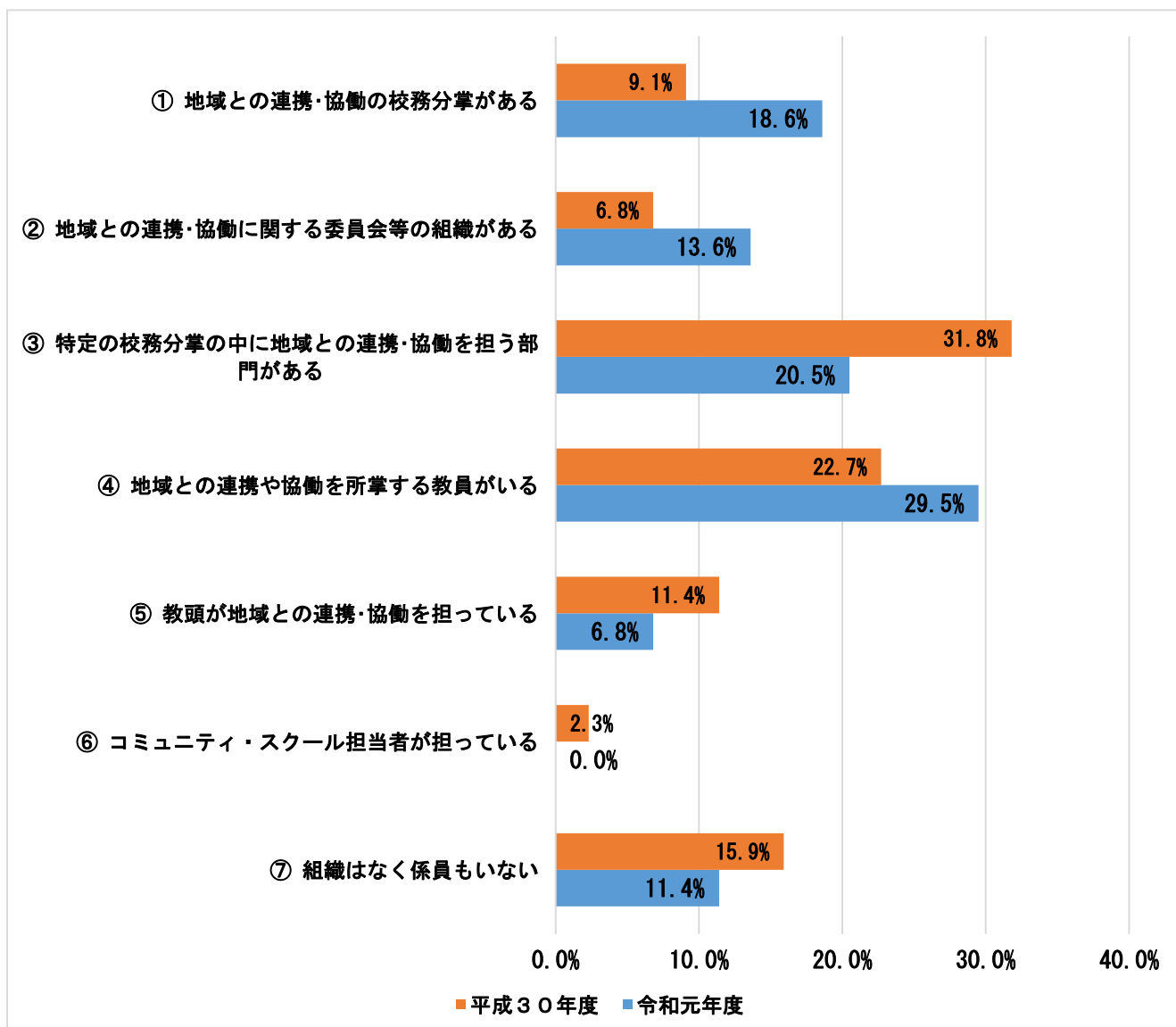


問 1 1 : 「地域と共にある学校づくり」(本事業やコミュニティ・スクールを含む)を担当する組織は、校内組織に位置づけられていますか。(1つ選択)

① 地域との連携・協働の校務分掌がある	18.6%
② 地域との連携・協働に関する委員会等の組織がある	13.6%
③ 特定の校務分掌の中に地域との連携・協働を担う部門がある	20.5%
④ 地域との連携や協働を所掌する教員がいる	29.5%
⑤ 教頭が地域との連携・協働を担っている	6.8%
⑥ コミュニティ・スクール担当者が担っている	0.0%
⑦ 組織はなく係員もいない	11.4%

地域との連携・協働を所掌する①校務分掌や②委員会等、③部門など地域との連携・協働を組織に位置づけている学校が 52.7% (昨年度 47.7%, +5.0%)、⑦組織はなく係員もいないとする学校が 11.4% (昨年度 15.9%, -4.5%) である。少しずつではあるが、組織的に取り組む学校が増えてきている。

組織的・継続的な取組を実現していくためには、学校運営協議会設置をはじめ、「地域と共にある学校づくり」を所掌する組織を校内に位置付けることが大切である。



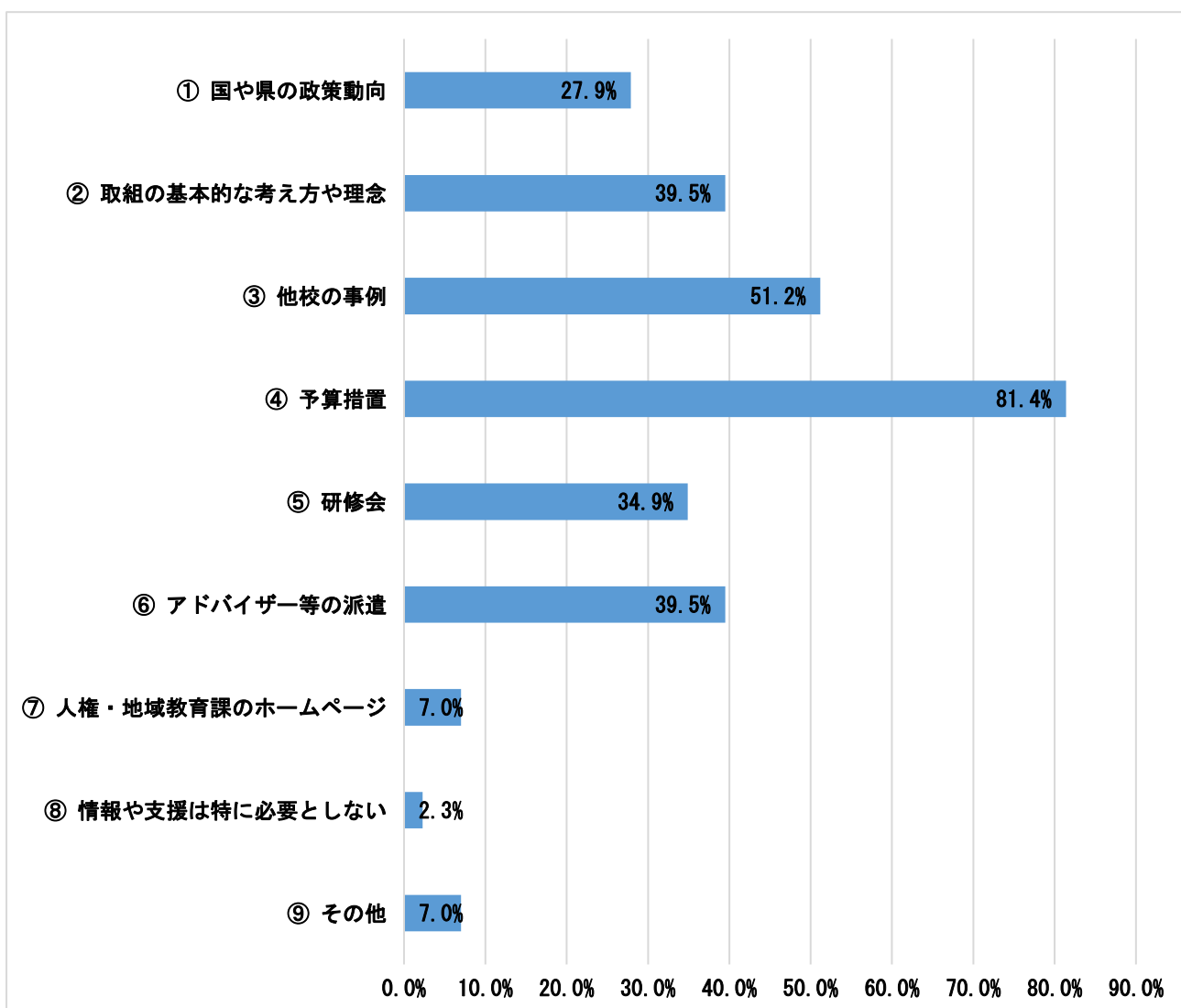
問12：「地域と共にある学校づくり」（本事業やコミュニティ・スクールを含む）の取組を一層推進するために必要だと思われる情報や支援は何であると考えますか。あてはまるもの全てを選択してください。

① 国や県の政策動向	27.9%
② 取組の基本的な考え方や理念	39.5%
③ 他校の事例	51.2%
④ 予算措置	81.4%
⑤ 研修会	34.9%
⑥ アドバイザー等の派遣	39.5%
⑦ 人権・地域教育課のホームページ	7.0%
⑧ 情報や支援は特に必要としない	2.3%
⑨ その他	7.0%

(43校中)

④予算措置に続き、多くの学校が②考え方・理念③他校の事例⑥アドバイザー等派遣を必要な情報としている。

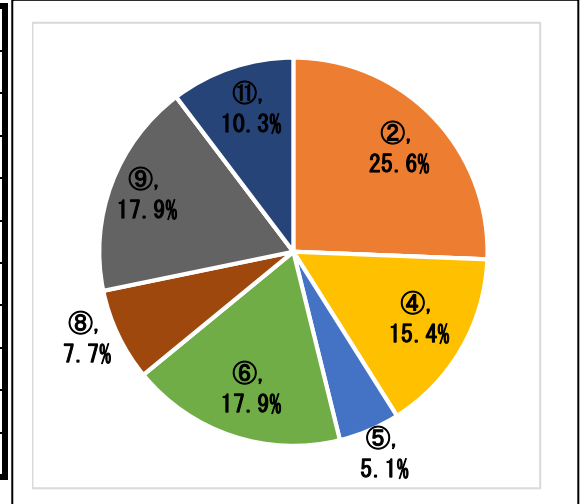
県教育委員会としては、今後も予算確保に努めるとともに、研修会等において先進校の事例を紹介したり、取組の情報交換ができる場を設定したりするなど、情報提供の工夫を図りたい。



## アンケートB（生徒用）

問1：どのような取組をしましたか。

① 高齢者・障害者・子どもへの支援	0.0%
② 高齢者・障害者・子どもとの交流・学習活動	25.6%
③ 専門家等を招いての学習、または専門施設での学習	0.0%
④ 地域の活性化や振興（まちづくり）	15.4%
⑤ 地域の文化や行事の伝承や継承を目指す取組	5.1%
⑥ 地域の行事や活動への参加	17.9%
⑦ 企業との共同開発や販売体験	0.0%
⑧ 学校の特徴を活用した地域貢献	7.7%
⑨ 地域への奉仕（清掃活動・環境整備活動など）	17.9%
⑩ 地域への情報発信	0.0%
⑪ その他	10.3%

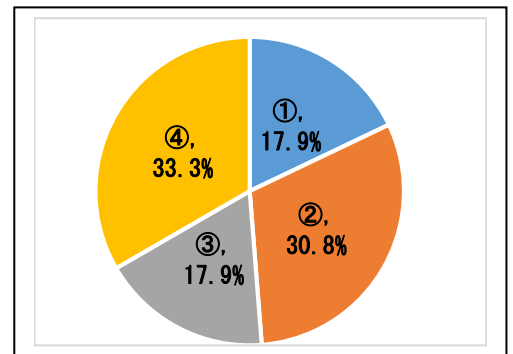


②高齢者・障害者・子どもとの交流・学習活動の割合が最も高く、次に⑥地域の行事や活動への参加⑨地域への奉仕④地域の活性化や振興と多様な活動が行われており、これら取組は充実してきている。

「地域に資する人材育成」の観点から、まちづくりや地域文化等に関する取組に生徒が参画することは重要であり、今後、充実していくことが期待される。

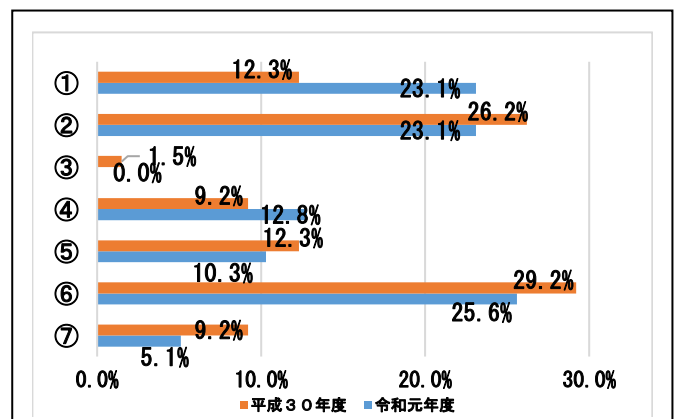
問2：本事業の取組に、これまで何回参加しましたか。

① 1回	17.9%
② 2回	30.8%
③ 3回～5回	17.9%
④ 6回以上	33.3%



問3：本事業の取組には、どのような立場から参加・参画しましたか。

① 自主的に希望者として	23.1%
② 生徒会として	23.1%
③ 学校行事として全員で	0.0%
④ 学級・学科・コース・学年全員で	12.8%
⑤ 教科・科目(授業)として	10.3%
⑥ 部活動	25.6%
⑦ その他（家庭クラブ）	5.1%



②⑥⑦のように生徒会や部活動、クラブとして参加している割合が全体の50%を超えており、各校の特色を活かした取組が進められていることが窺える。

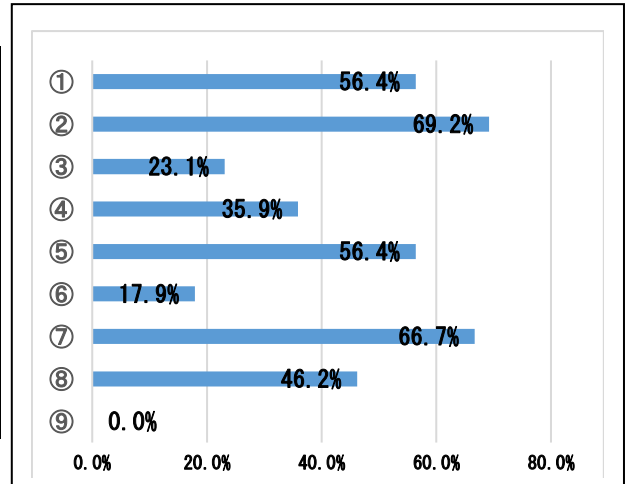
①自主的に希望者として参加している割合が23.1%（昨年度12.3%）と10.8%増加している。

④⑤のように「社会に開かれた教育課程」の一環と考えられる取組が合計で20%を超えている。今後は、「社会に開かれた教育課程」の実現のためにも、この視点での取組も充実していくことが望まれる。



問4：本事業の取組を通して、どのような力や意識などが身に付きましたか。【複数回答可】

① コミュニケーション力	56.4%
② 自信や経験値	69.2%
③ 問題を発見・解決する力	23.1%
④ 目標や計画を立てる力	35.9%
⑤ 自ら主体的に行動する力	56.4%
⑥ 地域の課題を意識すること	17.9%
⑦ 地域の方との関係が深まったこと	66.7%
⑧ 生徒間のつながりが強まったこと	46.2%
⑨ その他	0.0%



半数以上の生徒が、②自信や経験値⑦地域との関係深化①コミュニケーション力⑤主体的に行動する力⑧生徒間のつながり強化について、力や意識が身に付いたとしており、他者とのつながりやその関係性を築いていく力、自己有用感の高まりを実感していると考えられる。

今後は、取組を通じて得た経験や自信をベースに、③問題発見力④計画性⑥地域課題意識などの能力をさらに向上させることにつなげていくことが、事業の理念につながると考える。

問5：本事業に参加・参画した感想を書いてください。【抜粋】

私は、多くの地域のイベントに出演させていただき、来ていただいた地域の方々と交流することで、毎回たくさんの元気をもらいました。イベントでは初対面の方と話すことも多く、これを通してコミュニケーション力や周りを見て今何をするべきか、何か手伝うことはないか、などを意識し行動する力が身についたと思います。ここで得た力を社会に出たからはもちろん、現在の学校生活の中で行事や部活動が円滑に進むように動いたり、地域の方と積極的にコミュニケーションをとったりするなど、日常の中で活かしていきたいです。

参加したきっかけは、1年生の時の担任の先生が学校でのボランティアを主催していて、その先生に紹介されたことです。高校に入ってから何かボランティアなどしてみたいとも思っていたので、これを機に始めてみようと思いました。この取組を通して、コミュニケーション能力が身につきました。私は人と話すことや人前に出ることが苦手だったのですが、この活動を通してそれが克服できました。そして、人と関わることの大切さを学びました。これから人前で話すことや人と関わるが増えると思うので、この活動を通して得たことを活かしていきたいと思います。

地域の方や、校内の生徒会以外の生徒とも接する機会が増え、いろいろな人と話すことにより、コミュニケーション能力が上がったと思います。また、地域の方からも声かけをしていただくことも多く、地域に愛されている学校であるという思いが強くなりました。学校でのこの経験より、自分の地域の行事（もちつき大会など）にも足を運ぶようになり、自分の地域とのつながりも大切にしたいと考えるようになりました。

私がなぜこの取組に参加したのかというと、自分自身を成長させたいと思ったからです。この取組を通して私はコミュニケーション力・課題発見力など身に付けたいと思います。今後もっと地域の方々や交流をして、もっとより良いまちづくりをしていきたいと感じました。この取組で得た経験や力を次の取組や、生徒会・部活動・ボランティア活動など、様々な場面で活かしていきたいです。

1年生の時は、主に生徒会や学級全員での参加し、2年生からは自主的に希望して参加しました。取組を通して、コミュニケーション能力や主体的に動く積極性、イベントの裏側に携わったことによる経験、他校の生徒や地域の方との人間関係を深めることなどが身につきました。ここで得た経験は、大学入学後のインターンシップや、私の将来の夢である人と関わる仕事に必ず役立つと思うので、この3年間ボランティアを続けてきて本当に良かったと思います。

<p>この取組を通して、コミュニケーション力が身に付き、自らが中心となって行動する力が付きました。また、地域の方と関わることで「このようなことをしたら喜んでもらえるのではないか」、「ここを直せば課題の改善につながるのではないか」などを考えることが増えました。今後、この取組で得たことは、将来、自分の就く仕事の中で、同じような考え方や場面に遭遇したときに活かしていきたいと思っています。</p>
<p>地域の老人ホームやこども園の方と交流をする中で、同世代の人とは全然違う生活や考え方を間近で感じることができました。例えば、普段私たちが当たり前に行っていることが高齢者の方にとっては困難で「どうすれば少しでも力になることができるのかな」と考えることができました。学習したことや、実際交流して気づいたことを活かして高齢化が進んでいく中で、私たちが中心となって高齢者の方や小さなこどもを支えていけたらいいなと思いました。</p>
<p>1年生の頃、先生に勧められ初めて活動に参加しました。先輩方が地域の方々と一生懸命取り組んでいる様子を見て感動したのを覚えています。中学の時は、あまり学校にも行かず引きこもりがちで人と話すことが苦手でした。活動に参加し、幼・小・中学生や地域の方と接する機会が増え、今では人と接することが苦ではなくなりました。地域には様々な課題があります。私たち高校生にできることが沢山あると気づきました。来年も後輩に頑張ってもらいたいと思います。</p>
<p>生徒会として参加したのがきっかけです。取組を通し、協力する力の大事さと自分から積極的に行動することで、笑顔になってくれる方々を見て、自分から働きかけることは良いことなのだなあと考えたので行動する力がついた。今後は自己満足でもよいので役に立てることをしようと思います。日常生活や仕事など今後の人生に活かしていきたいと思っています。</p>
<p>地域の人たちと一緒に作業することによってコミュニケーション能力の大切さに気づき、地域の人たちから「きれいにしてくれてありがとう」というような感謝の気持ちを受け、達成感や充実感を味わうこともできた。さらに喜んでもらうには何ができるかと考える次の目標にもつながっている。</p>
<p>生徒会の役員として参加しました。最初、園児と一緒に行動するときどう接したらいいか不安だったけど、笑顔を絶やさず取り組めてよかったと思います。貴重な体験ができて楽しかったです。今後も保育所だけでなく小学校や中学校なども訪問して交流を深めたいと思います。</p>
<p>参加や参画のきっかけは、秋の学校行事として行っているから。普段、地域の方と交流する機会がない分、コミュニケーション力や地域の方との仲間意識が高まった。</p>
<p>活動をすることで、参加している人達と交流を深める事が出来て、コミュニケーション能力をつける事が出来たと思う。今後もこういった活動が出来たら良いなと思った。</p>
<p>普段の練習の時は、正しくお手前が出来るのだが、いざ本番になると緊張してしまい、失敗してしまいます。これを克服出来るように、これからも頑張って、たくさん練習をしたいと思う。</p>
<p>前回もこの取組に参加したので要領は分かっていて、動きやすかった。今回は後輩の参加もあり、心強かった。本校ならではの教材や競技等の説明を地域の方々にした。地域の方々と話をするのが楽しかった。</p>
<p>この取組は県内の多くの方々に本校を知っていただくために行った。同じように障害のある方に入学していただき、共に学びたいと思った。</p>
<p>いろいろな方と接し、新しい発見や自分の課題を見つけられ、良い刺激になった。</p>